

科目名	精神看護学援助論 I Psychiatric and Mental Health Nursing Care Assistance I		担当教員 (研究室番号)	木戸芳史 (非常勤) 奥野史子 (非常勤)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	kyomutanto@ml.mcn.ac.jp					
履修 年次	1年次 前期	科目 区分	専門科目		選択 区分	コース 必修	単位数 (時間)	2 (30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
科目 目的	<p>本科目は、精神的困難を抱えた人とその家族、あるいは集団を理解し、アセスメントするために用いられている基礎的理論を学習し、臨床看護における適応や使用方法について検討することを目的とする。</p> <p>なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「4. 精神看護理論・援助技法に関する科目」に相当する科目である。</p>											
ディプロ マ・ホーリ ン (DP)	主要なDP	7. 看護学の特定分野における卓越した看護実践能力を修得している。										
	関連する DP	1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。										
到達 目標	<p>1) 精神的困難を抱えた人の理解と生活の評価に必要な基礎的理論と臨床への応用について説明することができる。</p> <p>2) 精神的困難を抱えた人とその家族を包括的に評価するための基礎的理論と臨床への応用について説明することができる。</p> <p>3) 精神的困難を抱えた人やその支援者を取り巻く集団や環境に関する基礎的理論と臨床への応用について説明することができる。</p> <p>4) 対象者の病態像に応じて、適切な評価指標や精神看護理論モデルの枠組みを用いて対象者やその家族をアセスメントすることができる。</p>											
成績評価方法 (基準)	<p>①講義に対する事前準備及びプレゼンテーション (50%)</p> <p>②講義におけるディスカッションへの参加 (50%)</p>											
教科書	<p>・高度実践看護 統合的アプローチ. へるす出版(2017)</p> <p>・精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会(2009)</p>											
参考書等	<p>・リカバリー—希望をもたらすエンパワメントモデル. 金剛出版(2012)</p> <p>・ストレンクスモデル[第3版]—リカバリー志向の精神保健福祉サービス. 金剛出版(2014)</p> <p>・リカバリー・退院支援・地域連携のための ストレンクスモデル実践活用術. 医学書院(2016)</p> <p>・システムズアプローチ入門. ナカニシヤ出版(2017)</p> <p>・家族療法入門 システムズアプローチの理論と実際. 星和書店(1984)</p> <p>・看護師の倫理調整力 専門看護師の実践に学ぶ. 日本看護協会出版(2018)</p> <p>その他、随時紹介する</p>											
受講者への メッセージ	精神科領域において高度実践看護を提供するために必要とされる、個人・家族を理解するための基礎的理論や技術について一緒に学びましょう。											
備考	<p>事前準備 2-15回</p> <p>・該当する内容に関する国内外の文献から予習する。</p> <p>・1テーマ約45分間のプレゼンテーションができるよう準備し、授業にプレゼンテーション資料等を持参する。</p>											
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	精神看護専門看護師の役割と機能 高度実践看護における理論やモデルの活用				<p>・精神看護専門看護師の役割と機能について学習する。</p> <p>・高度実践看護において各種理論を学習する意義を確認する。</p>				木戸 奥野	講義		
2回	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとアセスメント				<p>・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを用いた対象のアセスメントについて学習する。また、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、モデルを用いて対象者をどのようにアセスメントするのか学習する。</p>				木戸 奥野	講義		
3回	セルフケア理論とアセスメント①				<p>・オレム及びオレム-アンダーウッドのセルフケア理論について学習する。</p>				木戸 奥野	講義		
4回	セルフケア理論とアセスメント②				<p>・オレム及びオレム-アンダーウッドのセルフケア理論について、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、理論を用いて対象者をどのようにアセスメントするのか学習する。</p>				木戸 奥野	演習		
5回	精神力動論及び自我機能のアセスメント①				<p>・フロイトの精神力動論及び自我機能のアセスメントについて学習する。</p>				木戸 奥野	講義		
6回	精神力動論及び自我機能のアセスメント②				<p>・フロイトの精神力動論及び自我機能のアセスメントについて、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、理論を用いて対象者をどのようにアセスメントするのか学習する。</p>				木戸 奥野	演習		
7回	心理・社会的成長発達に関する理論とアセスメント				<p>・エリクソンとハヴィガーストの心理・社会的発達理論を用いた発達課題のアセスメントについて学習する。また、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、理論を用いて対象者をどのようにアセスメントするのか学習する。</p>				前川 木戸 奥野	講義		
8回	社会機能の理論とアセスメント				<p>・精神的困難を抱えた人の社会機能をアセスメントするための様々な理論と手法(アセスメントツール、評価尺度)について学習する。また、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、理論を用いて対象者をどのようにアセスメントするのか学習する。</p>				木戸 奥野	講義		
9回	ストレス理論				<p>・ストレス脆弱性モデルと、ラザルスストレス理論について学習する。また、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、理論を用いて対象者をどのようにアセスメントするのか学習する。</p>				木戸 奥野	講義		
10回	危機理論				<p>・フィンク危機モデルとアギュララ危機理論について学習する。また、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、理論を用いて対象者をどのようにアセスメントするのか学習する。</p>				奥野 木戸	講義		
11回	家族に関する理論とアセスメント				<p>・精神的困難を抱えた人の家族をアセスメントするための様々な理論と手法(アセスメントツール、評価尺度)について学習する。</p>				木戸 奥野	講義		
12回	システムズアプローチ				<p>・システムズアプローチについて学習する。また、履修生や教員の臨床での経験(事例)をもとに、理論を用いて対象者や家族、集団をどのようにアセスメントするのか学習する。</p>				奥野 木戸	講義		
13回	リカバリー				<p>・リカバリーの考え方、リカバリーをアセスメントするための様々な手法(アセスメントツール、評価尺度)について学習する。</p>				木戸 奥野	講義		
14回	ストレンクス・エンパワメント				<p>・ストレンクス、エンパワメントの考え方と実践について学習する。</p>				木戸 奥野	講義		
15回	リカバリーを促進する先駆的な取り組み				<p>・リカバリーを促進するための様々な先駆的な取り組み(リカバリーカレッジ、ストレンクスモデル等)について学習する。</p>				木戸 奥野	講義		